

会社紹介

株式会社ニップラ

1. はじめに

弊社は、(株)日本製鋼所製の射出成形機の国内サービス保守を行うために設立された、57年の歴史を持つ会社である。

売上構成は、機械の保守サービス(役務と部品販売)事業の他、自動化システム機器事業を行っている。2020年度から新たに名機製作所製品の保守を加え、多くのお客様のサービスニーズに対応している。

2. 会社概要

名称	株式会社ニップラ
代表者	義本 啓二
設立	1963年11月1日
所在地	広島市安芸区船越南1-6-1 (株)日本製鋼所広島製作所内
資本金	50,000千円
従業員	190名(2020年6月現在 海外出向者除く)

- ・営業所
仙台・北関東・高崎・埼玉・東京・静岡・名古屋・大府・大阪・広島・福岡
- ・営業品目
射出成形機の据付試運転・修理・保守並びに成形指導
自動化システム機器の設計・製作・据付並びに保守
- ・会社経歴
1963年11月 日鋼プラスチックサービス(株)設立
1966年11月 日鋼サービス(株)に社名変更
1975年12月 日鋼サービス(株)より分離し、
日鋼プラスチック機械サービス(株)設立
1984年6月 (株)ニップラに社名変更
2009年8月 本社を埼玉県入間市から広島市に移転
2009年11月 インド現地法人(JSW INDIA)へ出資
2011年11月 自動化装置の販売開始
2018年11月 新設射出機部品センターの運用開始
2020年4月 名機製作所製品のサービス開始

3. 各事業の活動

3.1 機械サービス事業

①(株)日本製鋼所 広島製作所製射出成形機の保守

北は仙台から南は福岡まで、8営業所3出張所の11拠点のサービススタッフが、1969年製の製品から現行製品まで稼働台数14,770台(2020年5月現在)、顧客数

3,251社のお客様のご用命により訪問対応している。

業務内容は、射出成形機の据付試運転・修理・改造と多岐にわたり、電動射出成形機が主流の中、今も国内は油圧機が全体の30%を占め、電気回路に加え油圧技術が必要としている。そのため社内に専用のメカニクススクールを設け、知識の習得、技術力、技能の向上を目指し、若年層の育成に尽力している。

②(株)日本製鋼所 名機製作所製品の保守

2020年4月1日より名機製作所からサービススタッフが加わり、名機製品の保守サービス活動を開始した。名機製品には射出成形機、プレス機、ラミネーター等があり、とりわけお客様のご要望を盛り込んだ特殊仕様を有する機械が多く、仕様の特徴、機能、作動を十分に理解し、豊富な知識、経験を生かして、きめ細かい対応を心がけている。最近の出荷機は、縦型大型VR機、横型対向2M機等の大型特殊機がメインとなっており、自動車関連の大手のお客様への納入が多く、生産ラインの稼働の維持・向上に向けて、待たなしの対応にも迅速に対応している。

③国内外への射出機サービス部品販売

これらの射出成形機は、日本を初め世界44か国に輸出されている。その中で、20か国の海外現地法人および代理店と有償部品契約を結び、その数は海外台数の98%をカバーしている。

常に現地法人および代理店とコミュニケーションを取りながら、見積照会・部品受注・梱包作業・輸出審査・輸出作業等の業務を行っている。また、部品販売業務に留まらず、海外技術者からの相談、技術指導を積極的に行い、(株)日本製鋼所の製品が世界で円滑に稼働できるようお手伝いをしながら、当該関係の皆様とベクトルを合わせて成長し、売上拡大していく事を目指している。

3.2 自動化システム機器事業

システム技術部は、成形機周辺の自動化装置や、成形機周辺以外の組立検査装置等の設計・製造(一部外注)を行う技術部隊として、当自動化システム機器事業の拡大を担っている。

一般的に自動化装置は、リピータ注文機以外は一品一様の仕様であるため、都度お客様と打合せを行う必要がある。このため、システム技術部員は全員が技術営業員として

会社紹介

各地を回り、メカ・電気的设计仕様をまとめ、装置製作後は、調整試運転、立上げ調整まで行う。したがって部員全員にオールラウンドプレーヤーの能力が求められ、お客様と共に業務を行いながら成長、発展している。

4. 主要施設・システム紹介

4.1 射出機部品センターの運用

(株)日本製鋼所 広島製作所内に、延べ床面積 3,220㎡の3階建て「射出機サービス部品センター」が2018年10月末に完成した。弊社は翌11月から、射出成形機サービス部品専用の供給基地として運用を開始した。増加する機械管理台数、小型機から超大型機用までの部品供給力の増強、更には、(株)日本製鋼所の射出成形機のシェアアップを狙うものである。当センターにより、(株)日本製鋼所広島製作所射出機サービス部と弊社が所有する両者の部品在庫の一元管理が可能となり、適正管理を行うと共に、迅速な部品出荷作業が可能となった。弊社東京営業所に隣接する関東部品センターと共に、サービス部品供給の最大基地の役割を担っている。

4.2 業務基幹システムの紹介

弊社の業務は、売上額、出勤率、既納機情報、作業記録、技術情報等の情報を有するデータベースシステム『業務基幹システム(NETS2)』によって管理運用されている。2018年に改良を加え、新たな試みとして、製品の稼働年数やショット数から故障予測する、予知保全に向けた枠組みを構成し現在データ収集中である。そして今後は、海外現地法人の皆様にも NETS2 端末を設置し、リアルタイムな在庫確認や部品注文を可能とするシステム構想を計画し、さらなる部品販売強化を狙う予定である。

5. おわりに

当社は(株)日本製鋼所の射出成形機の保守サービス活動を通じて、国内外のお客様の生産性を維持・向上させ、機械販売の拡大を支える事で社会貢献を行う。そのために、高品質なサービスを提供し、お客様の『頼れるパートナー』であり続けるよう社員一同鋭意努力して参る所存である。



射出機部品センターの外観



電子部品用恒温室